

議事概要

令和6年度 第2回 新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会

日 時： 令和7年2月5日（水） 午後3時～4時

場 所： 新潟市芸術創造村・国際青少年センター 4階 多目的スペース2

出席者： 新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会委員

足立委員、阿部委員、石本委員、今井委員、栗田委員、塩田委員、齋藤委員、
高橋委員、辻村委員

事務局

生涯学習推進課地域学校協働推進室長ほか3名

傍聴者： なし

1 開会

2 生涯学習推進課地域学校協働推進室長あいさつ

3 議事

(1) 令和6年度の事業の成果と課題について

(事務局) 案件概要説明

(齋藤委員) 今年度から生涯学習推進課の指導主事による計画訪問が始まったが、具体的にはどのようなことをしているのか。また、CS講座についても、どのような助言や内容があるのか。

(事務局) 計画訪問では、当課の指導主事が担当の学校を訪問し、学校運営協議会の様子を見させてもらっている。その後、国の動向や修正点などをまとめた資料を使って助言している。

CS講座については、みらいず works に委託していて、学校運営協議会と学校協働活動、地域と学校パートナーシップ事業の一体的な進め方について講義と演習を行っている。

(齋藤委員) CS講座は、学校の先生方に向けてのものか。

(事務局) 先生だけでなく、学校運営協議会委員、公民館や社会教育施設の職員など、希望者が参加している。

講義だけでなく演習もあることで、共通理解が深まって、次のステップに進みやすくなる。学校側にとってはありがたい。

(事務局) C S 講座は希望制なので、毎回参加する学校と、まったく参加しない学校に差が出てしまうという課題もある。

(阿部委員) 「学校運営協議会で話し合われたことが地域と学校パートナーシップ事業につながっているか」の項目について、地域教育コーディネーターの評価が低めだった。自由記述の欄には、具体的にどのような理由が書かれていたのか。

(事務局) 個々の設問には自由記述の欄がなく、全体を通して記述できる形式だったため、この設問に関する具体的な記述はなかった。

(阿部委員) 数字だけでは分からない、生の声も聞いてみたい。

(塩田委員) 私は地域教育コーディネーターとして、評価のところで「やや当てはまる」にした記憶がある。学校運営協議会で話し合われたことが、地域と学校パートナーシップ事業にうまく結びついていないことが多いのではないかと感じている。学校側の取組について意見を述べる場にはなっているけど、それ以上の議論の深まりには至っていないというのが現状。

(今井委員) 調査の結果を見て思ったのは、「話し合いをしている」ということと、「話している」ということの違いがあるのではないかと。単に話して満足して終わっている場合もあるかもしれない。熟議を進める上で、話し合いのゴールや進め方をもっと明確にすることが大事。

(2) 次年度に向けた意見交換

(高橋委員) 地域教育コーディネーターがいないと、学校の総合的な学習の時間がかなり厳しくなるのが現状。地域との連携の中心を担っているので、活動を維持できる環境を整えることが必要だと感じている。

(栗田委員) PDCA サイクルの実践について、私が勤務している学校でも、議論は盛り上がるのだが、結局「誰がやるのか」の段階で止まってしまうことが多い。学校の課題を整理して、地域の人たちが関われる形で話し合うことで、役割分担をしやすくする必要がある。

3. その他

(事務局) 文部科学大臣表彰について、鎧郷小学校、青山小学校、鳥屋野中学校の3校が受賞した。

鎧郷小学校は地域の文化や施設と連携した学習活動、青山小学校は津波対策をテーマに地域と協働した取組、鳥屋野中学校は部活動の地域移行に向けた話し合いと仕組みづくりといった取組が評価された。

(石本委員) 新潟市社会福祉協議会では、福祉教育の推進を考えており、学校での取組について、地域教育コーディネーターと相談しながら進めている。今後、学校の福祉教育にも積極的に関わっていきたいと思っている。

3 閉会

【配布資料】

- ・令和6年度新潟市地域と学校パートナーシップ事業の取組
- ・令和6年度地域と学校パートナーシップ事業の成果と課題及び次年度の方針
- ・CSとパートナーシップ事業に関する調査結果
- ・令和6年度新潟市生活・学習意識調査結果（一部抜粋）
- ・地域教育コーディネーターの勤務に関する調査結果